

マレー・インドネシア語比較言語学序説

浅井恵倫

東京帝国大学言語学教室

昭和18年度特別講義ノート

1. インドネシア語の分類・分布
2. 音韻論
3. 形態

1. インドネシア語の分類

マレー・ポリネシア語

W. von Humboldt... マレイ半島のマレイ語 sg

我々ハ... マレイシャに於ける種々の言葉、つまりインドネシア語 pl.

E. Bobb... マレイポリネジャなる名称を用ひ

H. C. von Gabelentz もマレイポリネジャ語

Fr. Müller... 此の辺でマレイポリネジャ語の初期の研究が終る。

後に W. Schmidt が Austronesisch なる語を造ってマレイポリネジャに代へ、今日はこれを用ひる（南洋海島語）

Schmidt は Austronesia 語を次のごとく分類す。

1. Indonesich

II. Ozeanische Sprachen

- | | |
|---|--|
| { | <ol style="list-style-type: none">1. Melanesich2. Übergangs Spr.3. Polynesisch |
|---|--|

ここでは I のみを取り扱ふ。

Indonesisch の分布範囲は台湾より西はマダガスカル、東はニューギニア近くまで、この中に少し方言差あり。

Van der Tunk はこれを東西二郡に分かり得るとし、Brandes も音韻学的に扱っている。東の郡はフロシス方面で、ニューギニア方面だけ少し違ふ。

近代の南洋学者としてはスイスの Renward Bradstetter がいる。彼は Enciclopedia Italiana の中でインドネシア語を次の如く分類する。

1. Madagascar 島(Hova)

2. Malay 半島

Sumatra の 1 部にある Malay
Sumatra Minangkaban

3. Sumatra の Batak
4. Javanese, Sundanese
Madurese, Balinese
5. Borneo の Dayak (Úaju-Dayak)
6. 南 Celebes の Bugis – Makassar
7. 中部 Celebes の Bugis-Makassar
8. 北部 Celebes の Minabasa (Tontemboan)
9. Róti, Bima
10. Philipinne Is. (Tagalog)

高砂族は Indonesia 語に属する。
台湾の言語は十二に分ち得る。

- 1 . ətajal / tajal (台北、新竹、台中州) (山間地帯)
方言差多く更に? ¹つ位に分けられる。
 - 2 . se²edeq / sədʒeq (台中州—カレンコ庁方面)
之を tajal に入れる人もある。
 - 3 . saisijat / saisat (新竹州)
 - 4 . sounun (山間地帯の中部)
(ʔb) 方言的には南北中部の分れる。
 - 5 . tsou (阿里山)
 - 6 . la²aruwa } tsou の方言とする人あり。
 - 7 . kanakanaβu (183 人) }
 - 8 . dukai (台東庁、大南社、下之社)
 - 9 . paiwan
 - 10 . pujuma (台東附近の平原、卑南八社蕃)
 - 11 . ami / paŋtsah
 - 12 . jami
- 熟蕃 { 1 . kəβalan
2 . pazeh (二部蕃)

¹ (入力者注) オリジナルのノートは無く、40 年程前にコピーしたものに基づき入力する。コピーが薄くなり判読不明の文字は? として転記する。一字に? を一個当てる。つまり 2 字不明の時には?? と転記する。以下これに基づく。ノートの頁総数は、94。

3 . 0ao (一部蕃)

次のものはオランダ人の記録に残っているが、

Favorlang は小川氏によれば babuza 語

Sideia は台南州から高雄に居る Siraja

Philippine の言語

フィリピンに存する言語は5乃至6に大別される。フィリピンの言語の名称は伝統的に附けられていて、各部族によってそれぞれ名称が附いているために、言語上ではさ程差別が存せずとも、その族名に従って伝統的に名称がつけられている。人によっては150もあるというが、実際は5乃至6に分類されると思う。

1 . Tagalog (Tagala)

Manila-city

Bulacan

Laguna

Rizal

Tayabas

Nueva Ecija (南部)

Batangas

Bataan

*Mindoro Isl.(Manggan も存す)

Tarlac (一部)

Zambales (北部)

*Davao (一部) (労働者が集まるため土語は Tagalog ならざるも一部に Tagalog が行われる)

Manila の Tagalog は混同しているから、真の Tagalog を研究するには Batangas のものが最も純粹でよい。

2 . Ilocano(Iloko) [Lingua Ilocana]

Ilocos-Norte

Ilocos-Sur

Abra

La Union

Nueva Ecija (北部)

Cagayan の大部分

Isabela

Nueva Visaya

Zambales の一部

Ilocos-Norte に最もよい形がみられる。

- 3 . Ibanag (Ilocano に入れてもよいが伝統的に区別されている)
 Isabela の一部
 Cagayan の一部
 Nueva Biscaya の一部
- 4 . Pampango
 Pampanga
 Tarlac の南部
- 5 . Pangasinan
 Pangasinan
- 6 . Igorot (√ gorot pref.i が着くと gorot の住む土地)
 Bontok
 Ifugao
 Kalinga
 Lepanto
 Tinggian (Tinggyan)
 Igorot は Non-christian tribe に属する。これに対しクリスト教を
 信奉する者を Christian tribe と呼称す。
- 7 . Zambali
 Zambales
- 8 . Bicol
 Camarines Sur
 Camarines Norte
 Albay. Sorsogor
 Marinduque Isl.
 Masbate Isl.の一部
- 9 . Aklan
 Capis (Panay Is.)
10. Bisaya(この分類は言語的には非常に荒っぽく、これを更に方言
 分類する必要あり)。
 a. B. Hiligaya
 b. B. Cebuana
 c. B. Samar-Leyte
 a. Hiligaya
 Iloilo
 Capis
 Antique
 Occidental Negroes
 *Palawan Is. (Batak (スマトラのそれと違う)なる原住

民があり、Bisaya は後から入ったもの)
Masbate Is.の一部

- b. Cebuana
Oriental Negros
Cebn Is.
Bohol Is.
Leyte Is. の西部
Oriental Misamis
Surigao Agusan
Zamboanga Catabato
 - c. c. Samar-Leyte
Samar Is.
Leyte Is. 東半
 - c. Moro (南方種族を一般に Moro というが、言語的民族的には細分する要あり)
Golo Is.
Tawitawi Is.
* Zamboanga
* Davao
* Cotabato
- } 移住してきた者であるが、かなり古くから住居している。

(Magindanao)

其他

Tagacaolo
Samal
Tagbanua (Palawan に Batak と共に居住す)
Manobo (Agusan)
Mandaya (Buhidnon)
Subanun (Zamboanga)
Camalines (Camalines)

代表的なものは Agolog, Ilocano, Bisaya 及び Moro 等で、文学を有するのは前者である。

詳しくは Census 1939、参照 (実は1908年版がよい) したいものの方が正確である。新しいものはアメリカに対する政策上、またフィリピン自身の団結を固くするために事実を歪曲しているから1908年版が最もよい)

蘭印の言語

Encyclopedie “van Nederlandsch OostIndie”言語関係は非常に詳細
(東亜研究所に一部あり)

Atlas van Tropisch Nederland, 1938.

言語、氏族の分布図。以下は之によって分類す。これも言語の特質により近似したものを分類して載せている。

I. Sumatra Group

1. achee, Atjéh

banda(都の言葉) 色々な文献は banda で書かれている。

Hikayat 始めてここで文学が起こったが、後にはジャワ、マレーが成人して却って之に影響された。イスラムが入っている。

Snouck Hurgronje の研究が最もすぐれている。Atjeh は写本が少く、これは本を死蔵して人に貸さないからである。

2 . Gayo バタ語に近接

Laut 方言、Gayō-Luōs 方言に二分される。

3 . Batak

a. 北、Karo,Alos, Pakpak(Dairi)

b. Toba

c. Simoloengan(Timoer)

d. Angkola-Maudailing

Toba と Angkola-Mandailing とは比較的よく似ている。

v.d. Tunk が研究している。

研究資料豊富だが Pustaha は史料にならない。

ライデンには山の如く在るが、下らぬものである。

4 . Minangkabau

Padang 高原に行はる。Minangkabau はマライ半島に移住した故に、マライにはこの Minangkban の言語を保存する移住?? が認められ、マライ語自身もこの影響が大きい。文学はアチュー語と同じ位所有している。

5 . Malay

a. Malacca-Malay

b. hiouw-Malay

c. Batavia-Malay

d. Kubu

e. Malukka-Malay

マライ語はマライ半島全部及びシャムのパタム地方まで普及

している。スマトラの北部海岸に行はれるものもマライ半島に行はれるものと同じく Malacca-Malay である。

マライ半島のマライ語は非常に地方差が多く、これはスマトラから多くの移住民が来たため、また原住民（サカイ etc.）との関係によるものである。クランタントランが又??等、非常に語彙その他の点で特色がある。マラッカ及びジョホールに行われているものがジョホールマライ語と言われ標準的である。Risuw に行われるマライ語もよいマライ語であるが、シンガポールのマライ語は、ババ・マライといわれ支那式のものでよくない。ジョホールの馬來語は家庭、文学に用いられ非常により。matahari, Batavia malay は元来はスングの地域にあるものだが、スンダ語とは違う。これはジャワ中部のジャワ語とマライ語の混濁した非常に訛ったものである。モルツケン島でもよいマライ語が用いられ、セラム、アンボンではマライ語が非常に通ずる。これに移したのはポルトガル人であるらしい。

6. Midden-Malay
7. Ledjang, Lebong
8. Lampong スマトラ Lampong 地方に行はる。また一部 Benkoelen 州にも用ひらる。 van d. Tunk の研究によると Aboeng, Padian に二分される。文献記録がある。Ledjang, Lampong には印度等の文字が行はれ、マライ語に最も近い、また Sunda とも関係あり。
9. Simaloer
10. Nias
11. Mentamei
12. Enggano
13. Lonchong
14. Lon
15. Orang Laut

} 実地調査には面白い。

10 の Nias は言語学的には注目すべき語で、音構成は一見 Malagasy に近い。final の子音は長母音で終わり、P. Kähler の研究がある。

「地図あり」挿入！

V. Celebes フィリピンに関係ある語

- 1 . Sangir-Talaud
 - a. Bantik
 - b. Bentenan
 - 2. Mongondon, Ponosakam
 - 3. Tomboeloe – Tonsea- Tondano
 - 4. Tontemboan - Tonsawang
- 
- Minahasa

以上はすべて Philippine 系統の言語で、高砂族、Philippine の言語を比較するには此の Minahasa の言語がよい資料となる。

Tontemboan については Schwarz のより研究がある。

VI. Gorontalo

- 1. Bulanga
- 2. Kaidipan
- 3. Gorontalo
- 4. Boeol

VII. Tomini Dialect

VIII. Toradja

- 1. Kaili
- 2. Kulawi
- 3. Pipikoro
- 4. Napn
- 5. Bada-Besoa
- 6. Leboni
- 7. Bare[?]e
- 8. Wotu

N. Adiriani; De Bareé-Sprekude Tradja's van Midden-Celebe.

方言の研究もある、中部は民族学的に面白い

IX. Loinang Group

- 1. Loinang
- 2. Bobongko
- 3. Balantak

IX.a. Banggai

X. Bungku-Laki

- 1. Bungku-Mori
- 2. Laki
- 3. Laiwau
- 4. Mapute

XI. 南 Celebes 語

- 1 . Makassar

- 2 . Bugis (de') 俗称 (不定語よりとらる)
- 3 . Luwu (幾つかの語より成立つ)
- 4 . Sa'dan (taê)
- 5 . Pitu-Ulunna-Salu
- 6 . Mandar (andian)
- 7 . Seko (hari)

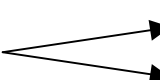
マカソサル語とブギス語とは非常に類似していて、レユジットは一緒にしている。語彙は共通。

Wotu ブギス語、トラジャ語にも似ている (その意味でトラジャ語の分類にも入れられる)

Saleyer Isl.の Layolo 語 音韻の点ではブギスに似て、語彙の点ではトラジャ語と似ている。

マカソサル語とブギス語とは終音は必ず母音で終わる (open syllable)、但し-ng は例外として終音になる。

母音を終音とするものには Indonesian には二種類ある。

例 takar  takara (a を附加)
taka (r を除く)

マカワサル語では終音の次に母音を付け、ブギス語では終音の子音を取除く。

Mal.	damar	tërús	kapas
Mal.	damura	tarrusu	kapasa
Bug.	dama	tëru	apě

マカワサル語には double consonant 多し。

マカワサル語の方言は次の二つに分類。

Toeratey (
 Saleyer (同系の小島に行はる)

マカワサル市のマカワサル語は支那語が多く入っているので純粹ではなく、田舎へ行かなければ純粹なマカワサル語は見られず、マカワサル語は大よそマレー語、ブギス 文学は若干ある。

Dr. B.F. Matheß 辞書、文語共に信用し得。

Basa Sangiang 祭事に於いて司祭者が用い、伝承的な歌

一種の Kunstsprache, 普通の語を人工的に改造したも

の。

マカッサル、ブギス語は固有の文字を持つが、インド系統。

. Java 群

- 1 . Sunda (中部)
- 2 . Java (東部、 ? 中)
- 3 . Madura (アグラ島及び附近の島々)
バタヴィアではマレー語が行はる。

Sunda

一名 Basa Goenong (俗名)

方言は比較的少ない。大部分は homogenous.

Builengorg 附近の語は一方言と見得る。

言語的、民族的に重要

音韻 long pêpêt 即ち : (eus ö) がある。ジャワ語には之はない、但し古代ジャワ語にはある。スンダ語は古代ジャワ語の研究にとって極めて重要。比較言語学的にもスンダ語を重視すべし。

Morphologie の点でもスンダ語には近代ジャワ語よりも古い形が残っている。ジャワ語に見られる階級語はスンダ語にもある。

lêmas (ジャワの krāmā 教語、高貴な事を表す)

sêdeng (ジャワの mādyā

しかしこの階級語はジャワ語に於ける程重要ではない。

文学 ジャワ語のそれに匹敵しないが、ブギス、マカッサルを遥かに凌ぐ。

Balai Poestaka (蘭 Volkslectuur) 書店。この店のものは Drewes の監督せるので正確。

Java 語

範囲は中部ジャワからスバラヤ辺まで延びる。方言的に差あり、他の 2 つに分ける。

- { a West Javaansoh Peckalongan を中心
{ å (o に近く聞こえる) Solo を中心。

Solo の方言がジャワ語の標準 (ジョクジャもほぼ同然だが、北寄りの Semarang, Rembang のジャワ語はこれと多少違う)

Jansz の辞書は Semarang, Rembang の方言であるとを忘れ

てはならない。

Out-Javaansch

Middel-Javaansch

Nieuw-Javaansch

古代ジャワ語 旧石器時代より始まってマジャパイリトモ朝の没落（十五世紀頃）まで。

Lontar; Bali 島の博物館に文献保存。専ら家庭に於て或る特殊な場合（祭典、外国使臣の接待）に使われ、日常生活、一般民衆とは無関係。

Shriftsprache で印度に於ける Sanskrit の如き地位にある。サンスクリットの影響頗る濃厚。

助辞、syntax は全くジャワ固有のもの。

中世ジャワ語

印度文化王朝の没落後より、古代ジャワ語に於けるよりもサンスクリットの影響を脱し、思想がジャワ的となり特に歴史的なもの多し。東ジャワの方言が沢山入っている。

近世ジャワ語

Mataram 王朝以降

サンスクリットが減り、アラビア語の外来語多し。

モルフオロジ、シンタックスは依然としてジャワ的で、思想は更にジャワ的となった。

古代、中世のジャワ語は現代ジャワ人には分らないが、近世ジャワ語は現代ジャワ人にも分る。

文献 頗る多し。

比較言語学的には、外来語が多いので扱いにくい。

階級語

社会制度に依る。貴族、平民の区別は厳格なので、それが言語上にも現れる。

(イ) Ngoko { 普通語、平民の日常生活で用ふ。
目上の者が目下の者に用ふ、親が子に対して
話すとき。真のジャワ語と言える。

(ロ) Kramā 日本語の敬語に当る。

{ 目下が目上に対する時。
比較的紳士に当る者同志がお互いに尊敬し合う時。

(八) Madyā

Ngoko と Krama との混同体

余り改まらない敬語。

- { 地位ある者が Ngoko では余り打ち解けない時。
目下でも年長者であれば之を用ふ。
商売人、市民でも少し改まって話す時。

(二) Krāmā-inggil

非常に神聖なものに対して用ふ、例えば神、最高のものに対して。

(ホ) Krāmā-kedaton (ḍ^まはラ)

家庭語但し王様は Ngoko を用ふ、従って Ngoko は決して卑しい語ではない。王はご自身のことに関しては Krāmā-inggil を用ふ。宮廷の女同志は Krāmāを用ひ、男に対しては Krāmā-kedaton を用ふ。

Krāmā-desā

田舎の人が用ふる敬語

Ngoko は本当のジャワ語

Krāmāにはサンスクリット、また隣接のマレー語、スンダ語及び analogy による語が入っていて、Kunstsprache に当る。非常に人工的な語である。参考書としては次が最高。

H.J. G. Walbeehm, De Taalssorten in het Javaansh, Batabia 1896

Madura 語

マドラ島及び附近の島々 (Vapoedi, Kangean 等) 及び Bésokè, Probolinggo(マズラ人の殖民したマズラ島北海岸に於いて行はる。文学はあるが、ジャワ語に匹敵し得ず。

実用的にはさして重要ならず。

音韻の特徴

有声破裂音が aspirate する、dh, bh

ジャワ語、スンダ語に比して特徴著し。

Borneo 群

Dayak 語と総称

1 . Klemantan-Group

2 . Iban-group (Sea-Dayak)

3 . Ot-Danum Group (Ngadjoe-Dajak)

4 . Konya-Bakan-Kayan-Group

5 . Murut-Group

6 . Bajo

他に無数ある。

- { Tidong (Tarakan)
- { Olam Maanjan (Ba?its 河上流附近)
- { Boesang (西の Kapoeas, Mahakam 河上流附近)

Nieunhuis の研究が貴重

Ngadjoe-Da?ak については Hardeland が立派な文法と辞書を作った。(辞書はドイツ語で造られた)

Nagdjoe-Dajak には affix, suffix が多く、infix は希。助辞がよく発達して、助辞によって時を表す。鼻音変化著し。(prenasalization)

pukul → mǝnukul (Mal.)

takau → manakan (Nga.)

genitiv には particle ng を用ふ

huma n ama-ku (私の父の家)

(ruma, huma, gama R → マレー語

G → 台湾

H → ボルネオ

ボルネオ語は北セレゼス→フィリピン語→高砂族に近い。

マレー語には余り近くない。

Bali Sasak 群

1 . Bali

2 . Sasak

3 . Sumbawa

Bali 語

バリ島、ロンボク島に話されている。

ジャワ語、時に古代ジャワ語の影響著し。即ち古代ジャワ語はバリ島に最も長く保存された。

? 系統語法はジャワ系統

ジャワ語に最も近いが、それよりもサンスクリットの影響が濃い。

古代ジャワ語はバリ人によって比較的近代まで伝承されている。

Sasak 語

ロンボクに行はる
バリ語に近い。

Sumbawa

同名の島に行はる。

Muna, Buton Groups

X に近い

- 1 . Muna-Buton
- 2 . 南 Buton
- 3 . Tukang Běri Is.
Kalaotao
Korompa
Bonerate
- 4 . Wolio, Layola

Bima-Sumba Groups.

1. Bima
2. Manggarai
3. Ngada-Lione
4. West-Sumba
5. East-Sumba
6. Hawu

Bima 語は同名の島の外に Sumba 島の東部に於いても話される。

Sumba 語と Bima 語とは近似、但しスンバク語とビマ語とは違う、スンバク語はバリの系統でジャワ語に近い。

Ambon-Timor Group

1. Kroë
2. Solor
3. Kedang, Alor, Pantar
4. Belu (Telum)
5. Marae
6. Timor
7. Kupang

8. Roten
9. Wetar
10. Roma
11. Kisar
12. Leti
13. Damar
14. Tanimbar
15. Kai
16. Aru
17. Baru
18. Ambelan
19. West-Ceram
20. East-Ceram
21. Goram
22. Banda

以上は研究不十分で未開拓。

Buru は de Jong, Leti は Jonker によって或る程度研究されている。

俗称 Papua(Indonesian 移住前の言語)の研究の成果にまつ所が多い。

6 の Timor 語は同名の島の西南部に話される。

【欄外に注】Timor は Lotli に近い TeHum カラハナレテオル

7 の Kupang 語は同じチモールでも方言的に多少違うので 6 の別にされる。

チモール島は多くの諸島の移住民が多いから諸種の語が通じ、マラッカ方面よりむしろ此の島の方がマレー語がよく通用する。

Sula-Bachan Groups

1. Taliabo
2. Sula
3. + Bacham 死語

セレベスとハルマヘルの中間の島々

南 Halmachera-南 New Guinea 群

〔 北 Halmachera に於いては Ternate, Tidor の如き広義に
Papuan 系言語が行はれる。 〕

1 . 南 Halmahera 諸語

2 . Nufoor (Mafoor) →

3 . Windessi

4 . Kowaiai

5 .

西ニューギニアの北岸即ち Doré
沿岸、一部は Sekouten Is. に行は
る。メラネシアの影響は濃い
がインドネシアに属しチモール語
に近い。

Madagascar の言語

Malagasy—— マダガスカル語と共にその島に住むインド
ネシア系統の住民をも指す。

Hova (Imerina) を通常指す。

Tananarivo ホヴァの中心地で Malagasy の別名にも用ふ。

{ Betsimisaraka

{ Betsileo アラビア人の血が入っている。

研究家 G.Ferrand 特にアラビアの影響について精緻。

彼はマラガシを L.D. の二群に分つ。

L *Li > li

D *Li > di Hova は D 群に属す。

現は Hova その他の国字はローマ字を用ふ。綴り方は 1820 年に宣
教師の造った古いもの。それ以前はアラビア文字を用いた。

Essai de Grammaire Malagache, Paris 1903

辞書は多いが、特に Richardson; New Malagasy English Dictionary
がよい。

マラガシは比較言語学の上で重要である。

2 . 音韻論

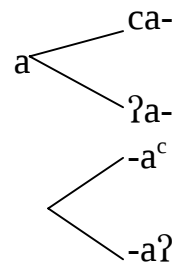
§ 1 . Tagalog

母音	a	i	o	u		
半母音	y	w				
重母音	ai	ao	oi			
子音	p	b	m			
	t	d	n	r	l	s(z はない)
	k	g	ŋ			
鼻音結合			mp	mb		
			nt	nd	ns	

喉頭音 ŋ^h ŋ g
c ? h (? : glottal stop)

c Denpwolf の用ひ方で、Brandstette は之を用ひず、Denpwolf に従うと此の如くである。

インドネシアの initial, final には二種ある。



Toba-Batak

母音	a	e	i	o	u	
半母音			ナシ			
子音	p	b	m			
	t	d	n	r	l	s
		d'				
	k	g	ŋ			
	c	ʔ	h			
鼻音結合	pp		mb			
	tt		nd	ts		
	n'd'					
	kk		ŋg			

Java

母音	a	ǎ	e	ě	i	o	u
	ǎは Dempwolf は aで表し、発音記号では[v]						
	ěは発音記号では[ə]						
半母音	y	w					
子音	p	b	m				
	t	d	n				
	ṭ	ḍ	ṇ				
	t'	d'	n'				
	k	g	ŋ				
鼻音結合		mp	mbs				

			nt	nd			
			nt	nd			
			n't'	n'd'			
			ŋk	ŋg	ŋs		
喉音		ㄱ	ʔ	h			
Ngadjoe-Dajak							
母音		a	ǎ	<u>e</u>	i	o	u
			[ə]	[ɛ]			
半母音		y	w				
重母音		ai	ao	oI			
子音		p	b	m			
		t	d	n	r	l	s
		t'	d'	n'			
		k	g	ŋ			
鼻音結合		mp	mb				
		nt	nd				
		n't'	n'd'				
	x	ŋg	ŋg				
喉頭恩		ㄱ	ʔ	h			
Hova							
母音	a	ǎ	e	i	o	u	
子音	p	b	m				
	t	d	n				
	k	g					
	f	v					
	s	z	l	r			
鼻音結合							
	mp	mb					
	nt	ntr	nts	nd	nds		
	ŋk	ŋg					
Affricate		dz	ts	dr	tr		
Larinx		ㄱ	h				
Malay							
母音	a	e	ě	i	o	u	

半母音	y	w			
重母音	ai	ao			
子音	p	b	m		
	t	d	n	r	l
	t'	d'	n'		
	k	g	ŋ		
	ʔ	h			
鼻音結合	mp	mb			
	nt	nd			
	n't'	n'd'			
	ŋk	ŋg	ŋs		

s(z は外来語のみ)

bili^c (買う) > bilikam (代価)

salo^c (共食) > kasakuhin (共食者)

tanaoʔ (見る) > tanamin (見られる)

dagaʔ (昆 ?) > dagain(昆 ? に食はれる)

b) prefix + d- > -r-

dagat(海) > karagatan (* ka-dagat-an)

c) -d + suffix (母音で始まる) > -r-

bukid(丘) > bukiran (丘のある地方)

(philippine 語においては d と r とは同一の phoneme である)

Toba-Batak

-K + suffix (母音で始まる) > -h-

lapuk(カビ) > lapukon(カビの生える可能性がある)
(lapuk-on)

Jan.-h + suffix (母音で始まる) 1) -h-

2) -c-

1) salak(あやまり) > kasalahan(名詞的あやまり誤謬)

h をはさむ母音が同一の場合

2) labuk(タイコのバチ) > tabu^can (打響音)

h をはさむ母音が異なる場合

§ 4 Nasalization

prefix が付く場合、語頭の頭子音が変化する場合と変化しない場合とがある。

- 1) 頭子音が他の子音によって変えられる、その時の鼻音は音声学上、頭子音と同種類の鼻音である。
- 2) 頭子音がそのまま残って prefix と頭子音との間に頭子音と同種類の鼻音が発生する。

§ 2 . インドネシア語には語根を繰り返すことがある、之を二種に分つ。

1 . Complete Reduplication (Iteration)

2 . Partial Reduplication (Reduplikation)

例。 1 . Tg. taún – taón (年々) < taón (年)

ML. orang-orang (人々) < orang(人)

2 . Tg. lalaki (男) < *laki

Tg. susulat (書く - 未来) < sulat (書く)

Tg. bulaklak(花) < bulak(開く)

§ 3 . 音の結合による変化、特に suffix のくる場合
母音の変化

Tg. a) –o- + -an (suffix) > -u- + an

最後の syl.の母音

tagalog(水の沢山ある辺に住む人々)+an > tagalogan

(タガログの居る地域)

b) diphthong + an > 半母音 + an

malái (死) > pagmatayan (死所)

Jav. a) final –i + an > -en

api > prapen (< *për-api-an)

b) final –u + an > -on

watu (石) > pawaton(<*pa+watu+an)舗石した所

子音の変化

Tg. a) final + $\begin{pmatrix} \text{an} \\ \text{in} \end{pmatrix}$ > - han
-hin

Tag. 1) ma-, na- (Nomen Agentis 自動詞的の名詞)

pa- (Nomen Instrumenti)

b>m bili^c (買う) > namili^c (買うという動作をやった
人の動作)(買った)

(*na+bili)

p>m pili[?] > namili[?]

d>n dikit (糊やニカワでつつく?) nanilkit

(糊やニカワで着いた)

t > n tákot > nanákot

s > n súlat(書く) > panulat(書く道具)

k > ŋ kitac(見る) > naŋita(見ました)

paŋita(見る道具、眼鏡)

? > ŋ ?utaŋ(金を借りる) > naŋutaŋ(借りました)

2) b > mb balot(?) > mambalot(? い)

d > nd dipa(?) > nandipa(? で計った)

g > ŋg gawai̇(呪術) > naŋgawai̇(呪術を行った)

h > ŋh hirám(物を借りる) > naŋhirám(物を借りた)

以上の如く b, d は m, n になる場合と mb, nd になる場合とがあ
って、之は法則がなく習慣的に一定しており、辞書を実際
に見る以外に方法はない。本来はマレー語の如く無声子音の場
合のみ鼻音に変化して、有声子音の場合には mb, nd となっ
ていたものが更に有声子音の場合にも b, d が鼻音に変化するに
至ったと考えられる。かかる現象はマレー語にも若干認め得
る。

Toba-Batak

1) ma-

pa- (Nomen Aktions, Nomen Instrumenti)

b > m bunu(殺) > mamunu(殺す) pamunu(殺人者)

p > m puluŋ(集) > mamuluŋ(集める)、pamuluŋ(呪術用の薬
草を集める人)

t > n tambun(塚) > manambun(墓穴をほる)、panambun(墓穴
を掘る人)

s > n sulut(書) > manulat, panulat(書く道具)

? > ŋ ?aíd'ak(跳) > maŋaíd'ak(跳びこえる)

Java

1) Prefix を附けずに鼻音添付代用を行ふ。

w > m warah(知らせ) > marah(知らせる)

* na+warah > mamarah > marah

p > m payuŋ(傘) > mayuŋ(王にさしかける傘をさし上げる)
(*pamayuŋ)

t > n tili(見る) > nili(人を訪ねる、訪ねあふ)

$t > n$ $t_{\text{it}}I$ (軽く叩く) > $n_{\text{it}}I$ (火をおこす)
 $t' > n'$ $t'abut$ (搾り出す) > $n'abut$ (何かをしぼり出す)
 $s > n'$ $suruŋ$ (押し出す) > $nuruŋ$ (何かを押し出す)
 $k > ŋ$ $kukup$ (手に取る) > $ŋukup$
 $c > ŋ$ $cad'ar$ (教へる) > $ŋad'ar$ (教へる)
 $t' > n'$ $t' > n$
 $s > n'$ $s > n$

Ngadjoe – Dajak

1) { ma^c- (活動動作を示す)
 $i-$ (受身)
 $pa-$ (Nomen Agentis)
 $p > m$ $pukul$ (打) > ma^cmukul (打つ)